

公衆衛生看護技術論

[講義] 1年 前期 選択 30時間 2単位

《担当者名》 表山知里 [omote_22@hoku-iryo-u.ac.jp]
 佐藤美由紀[sato_m@hoku-iryo-u.ac.jp]
 明野聖子 [naga-s@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

地域の人々の健康やQOLの維持向上を目指して展開される公衆衛生看護活動の対象は、個人・家族、集団・組織、地域等様々であり、それぞれの対象に対する看護の展開における基本的な実践プロセスの技術を修得する。支援の実践に必要な知識を獲得し科学的根拠に基づいて実践できる能力を養う。具体的な実践方法としての家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育実施に関する基礎的知識と考え方を修得する。

【学修目標】

1. 人々の健康行動の特性を理解し、地域に住む個人・家族、および集団の健康を保持・増進するための公衆衛生看護技術を理解する。
2. 個人・家族及び集団が健康を保持・増進することを支援する方法として、健康相談、健康教育、家庭訪問、健康診査の基本姿勢とプロセスを理解し、保健師に求められる援助技術について説明できる。
3. 個人・家族及び集団が健康課題を解決するために、健康行動を生み出す力を理解し目標を達成するための具体的な支援を実施できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|-----------------------------|--|----------|
| 1 | 個人・家族の理解と対人支援 | 1. 公衆衛生看護活動に求められる技術 2. 個人・家族の理解と対人支援の基本 | 表山 |
| 2 | 対人支援活動の基本となる技術 | 1. 対人支援の基本(目的、支援の過程) 2. 対人支援の技術 カウンセリング、コーチング | 表山 |
| 3 | 健康行動の理解(1) | 1. 健康行動理論、モデルの理解 ヘルスリテラシー、自己効力感、ナッジ | 表山 |
| 4 | 健康行動の理解(2) | 1. 健康行動理論、モデルの理解 ヘルス・ベリーフモデル、 行動変容ステージモデル | 表山 |
| 5 | 健康相談 個人・家族を対象とした健康教育 | 1. 健康相談の方法とその特徴 2. 健康相談の展開方法 3. 支援者の基本姿勢 | 表山 |
| 6 | 家庭訪問 | 1. 家庭訪問の方法とその特徴 2. 家庭訪問の展開方法 3. 支援者の基本姿勢 | 表山 |
| 7 | 健康診査・検診(1) 乳幼児健診 | 1. 乳幼児健診の方法とその特徴 2. 乳幼児健診の展開方法 3. 支援者の基本姿勢 | 明野 |
| 8 | 健康診査・検診(2) 成人を対象とした健(検)診 | 1. 健康診査・検診の方法とその特徴 2. 健康診査・検診の展開方法 3. 支援者の基本姿勢 | 表山 |
| 9 | 集団を対象とした健康教育 | 1. 健康教育の理念 2. 保健・医療と健康教育 3. 健康教育と保健行動 | 表山 |
| 10 | 健康教育の方法と媒体 | 1. 健康教育のアプローチ 2. 健康教育の方法 3. 健康教育の媒体 | 表山 |
| 11 | 健康教育の展開過程 | 1. 企画書と指導案の作成 2. 健康教育の実施 3. 健康教育の評価 | 表山 |
| 12 | 住民を対象とした健康教育の実践 | 1. 健康教育の企画準備 | 表山、佐藤、明野 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|------------------------|--|----------|
| | (1) | 2. 企画書の作成 3. 指導案の作成 4. 評価案の作成 | |
| 13 | 住民を対象とした健康教育の実践 (2) | 1. 健康教育の企画再検討 2. 企画書の修正 3. 指導案の修正 4. 評価案の修正 | 表山、佐藤、明野 |
| 14 | 住民を対象とした健康教育の実践 (3) | 1. 企画書と指導案に基づいた健康教育のデモンストレーション | 表山、佐藤、明野 |
| 15 | 住民を対象とした健康教育の実践 (4) | 1. デモンストレーションの評価と修正 2. 健康教育の評価 | 表山、佐藤、明野 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

参加状況・ディスカッション(40%)、プレゼンテーション及び作成資料(60%)によって総合的に評価する。

【教科書】

佐伯和子編：公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護の方法と技術, 医歯薬出版株式会社

中谷芳美：標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院

【参考書】

適宜提示する。

【備考】

Google Classroomを用いて出席確認及び学修の理解の確認を行う。

【学修方法】

1～11回は教員による講義。12～15回は地域の協力団体の対象に合わせた健康教育の企画・実施・評価、事後フォローの検討を行い、一連の健康教育を中心とした支援過程を実践する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

表山知里(保健師) 佐藤美由紀(保健師) 明野聖子(保健師)